

特別
リ 5
12432
14



45
12432
14

- 一 癸巳將軍於名護屋決越年之計
- 一 迫誘後之蘇麻波止之計
- 一 將軍情おまぬ之計
- 一 就下可お及有之計
- 一 丹國之政落之計
- 一 津能之計
- 一 漢南勢之計
- 一 大友以下二三人治打摺之計
- 一 於朝鮮船軍之計
- 一 於海軍之計

大友以下



大同祀卷十四

小淵東菴之北輝録

○將軍於名護屋祭已出越年之事

思くも〜ゆや之迄奉乃〜。文祿元斗是
 漸更志げふ中子ま〜進ふれ。都は〜此果
 嘗りよ〜子替り。目りれぬさゆ多うり〜と
 か〜の〜内子鶏正且乃祝音ニテ井と唱ナふ。嘗
 も岩の戸出〜うわ新。免は〜りゆり。此果ハ
 いよく目出さの喜〜。と〜ふの〜に
 將シカ系シカ〜ゆ。折〜。城列八幡山の音シ招新シの
 衣手新〜法祝系申上り〜。名護屋に

大同九

二

おて下向チカラ〜〜〜〜〜
 も出撫ケイコ古有〜
 之命オラサ古もオラサ〜
 云かり〜
 止ヤめいあ、目あ〜
 と合フツレて〜
 一してトキエ出前斗らトキエ百連流トキエ撫古トキエ〜
 一〜
 新あり〜
 方フエテも〜

一〜
 と強く思ひに〜
 氏と安ん〜
 く何〜
 五ツ六ツ書ツ覺ツし〜
 や〜
 の性カサナも〜
 見ミる人〜
 か〜
 相アヒ節ノるコト法フツ候コト夫コト末コト亦コトも〜

角坊の仕合こころ一ア一なるん也。斯能よ寸さ好
一よ因て名おのぶとて尺多く衆とまらざる大
かこまゝぬるうとぬり。

○と来處を察し海とけり

近衛殿いゝ思召をん高砂一見乃こめこの海は
海之方志よりけり。上持よもそさなぬと
す。巻のよりおやりぬ。折巻秀吉のとも名護屋
もく波友や百。しりなき茶とら作其方信吉
院玄以こまて西田女より。津上下卒承こり

よらん係係。是よ因^{ヨリ} 中震筆一秀吉つらへ初定有
之。其勅書よ云く

八 振衆乃

六 真実よ

九 治也

七 しくんハ

一 とも前

二 た府こ察

十 勘路の

三 下向乃

四 ぬいぬい

^{十一}やうきし
^十及られし

^{十二}あつと

お月しめし

かきしめ

くせしめ

あはれしめ

おとろふしめ

あつとあ

り

あれ

二月十日

大岡よめ

^{十ヨクシヨ}初吉と
^{キヤウタイ}竹軍頂戴
いふ事
^{シキレ}冥加に
あまじり
震様

と安んヤスん一おんされやうよ。を米をと練まい
うせこの御麻ミカサ浮海ウカイうをきやうよ一ゆるん
方。チヨクタクおのりりりり

○秀吉の憐レミヤウ於夫婦オトメの事

薩列治津内。小姓振津守ゆよ。やう一う一息
女を持ゆり一の。肥前龍造ちう。長瀬川事女は
嫁と。米女正高タカ藤田傳デンの行ユキ一。はああ一
一思いのなとと聊物シヨモノ子シ記ル一付ツ候コト一と。

役の船よ。とつてとつりたり。折マり難ガ風カゼおひ
一う一う。吹フ来クて船破フナ換カ一。なれ博ハカ多タの浦ウラ一あ
来クと。漁キヨホ又ホ拾ヒい上ウ候コト一。その中ナカ一は浪ナミ深シやう
のあカよて能カつてと存ゾク物モノ何ナニり。拜ヒラてくれレ一。あハおと
り一。まマゆり一。かカとトふフんンのノ耐タ冷レまマもモけ
うウ一。よヨのノつツまマなナめメあアおオありリ。やヤ一。さサまマのノ
取ト披ヒ露ロるルさサ物モノ一。あア一。さサじジめメらラとトて。取トのノ更シ勢セハ
こコ一。上ウねネ。更シ勢セ取トつツ。おオ平ヘ之ノ出デ出デのノかカくクとトり
上ウ候コト一。れレハハるル秀ヒデ吉キチとトおオのノ符フとトもモ切キとトり
んン。尤ユウもモにニくク候コト一。市イチ山サン味ミとトして。海ウミ一。出デ人ヒト有アル

うらつゝまひるれとちかきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
くちよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
やうよんもつひなり我も亦いふにやうきよきよきよきよきよ
とまきり梓心かよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
るしよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
え何れ海もよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
多くてきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
ひあきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
くちよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
まはるれきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
わきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
あひきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
あきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
まきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
てわれきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
くちよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
まきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
山を隔て^{各七}まきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
くちよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

か川にのちあきし

菊

くわん

秀乃若ら山珠をよして回らんまされ懐なれ
るも如然ハ龍造ちうく人此瀬川家母と編
能^{テウ}せさ^セと。河内也まうく。おけて肥列ノ家た
る。此^{ツク}番^{ツク}わくしけらま^{ツク}越^{ツク}と。まうく。おひ。家
めよりくと。可^{ツク}ま^{ツク}く^{ツク}ら^{ツク}ま^{ツク}ふ^{ツク}名^{ツク}儀^{ツク}屋^{ツク}へ^{ツク}海^{ツク}つ^{ツク}る^{ツク}法
礼^{ツク}と^{ツク}ま^{ツク}う^{ツク}後^{ツク}し^{ツク}と。家^{ツク}母^{ツク}ら^{ツク}し^{ツク}時^{ツク}に^{ツク}し^{ツク}ハ

は身もつまを好くして。回^{ツク}ち^{ツク}ま^{ツク}お^{ツク}な^{ツク}く^{ツク}や^{ツク}八^{ツク}糸^{ツク}尾^{ツク}
か^{ツク}う^{ツク}産^{ツク}ま^{ツク}と^{ツク}の^{ツク}手^{ツク}越^{ツク}と^{ツク}ま^{ツク}んと^{ツク}ら^{ツク}ひ^{ツク}。後^{ツク}と^{ツク}あ^{ツク}め^{ツク}う
う^{ツク}ひ^{ツク}ハ^{ツク}安^{ツク}ま^{ツク}さ^{ツク}り^{ツク}な^{ツク}り^{ツク}と^{ツク}く^{ツク}足^{ツク}糸^{ツク}子^{ツク}入^{ツク}所^{ツク}よ^{ツク}。法^{ツク}書^{ツク}あ^{ツク}か
う^{ツク}産^{ツク}ま^{ツク}よ^{ツク}糸^{ツク}越^{ツク}志^{ツク}め^{ツク}や^{ツク}た^{ツク}に^{ツク}ま^{ツク}あ^{ツク}う^{ツク}。と^{ツク}ら^{ツク}り^{ツク}多^{ツク}く
お^{ツク}り^{ツク}ま^{ツク}せ^{ツク}と^{ツク}の^{ツク}と^{ツク}て^{ツク}。神^{ツク}ら^{ツク}り^{ツク}た^{ツク}ん^{ツク}ま^{ツク}う^{ツク}と^{ツク}あ^{ツク}り^{ツク}
な^{ツク}り^{ツク}

物^{ツク}の^{ツク}あ^{ツク}り^{ツク}れ^{ツク}と^{ツク}め^{ツク}く^{ツク}は^{ツク}こ^{ツク}海^{ツク}神^{ツク}の^{ツク}
ま^{ツク}う^{ツク}ら^{ツク}よ^{ツク}か^{ツク}う^{ツク}れ^{ツク}君^{ツク}乃^{ツク}の^{ツク}ま^{ツク}う^{ツク}
か^{ツク}う^{ツク}産^{ツク}ま^{ツク}短^{ツク}冊^{ツク}と^{ツク}法^{ツク}書^{ツク}あ^{ツク}く^{ツク}お^{ツク}り^{ツク}ま^{ツク}せ^{ツク}よ^{ツク}。ね
む^{ツク}け^{ツク}し^{ツク}腕^{ツク}り^{ツク}と^{ツク}し^{ツク}や^{ツク}う^{ツク}て^{ツク}ま^{ツク}あ^{ツク}よ^{ツク}と^{ツク}ら^{ツク}り^{ツク}ま^{ツク}せ^{ツク}よ^{ツク}。

衆人の所へいと物々々々ありて天下の君
を立たすの事毎にありては、此の世の事ありては
ては、此の世の事ありては、此の世の事ありては
うおのりてせらるるにけり、此の世の事ありては
よめは、此の世の事ありては、此の世の事ありては
りおのりてせらるるにけり、此の世の事ありては

浮の世の事ありては、此の世の事ありては
よめは、此の世の事ありては、此の世の事ありては
に因ては、此の世の事ありては、此の世の事ありては
は、此の世の事ありては、此の世の事ありては

や、此の世の事ありては、此の世の事ありては
か、此の世の事ありては、此の世の事ありては
黙しておのりてせらるるにけり、此の世の事ありては

○就于、おのりてせらるるにけり、此の世の事ありては
態申せらるるにけり、此の世の事ありては

一赤國本曾判友卒、此の世の事ありては、此の世の事ありては
在、此の世の事ありては、此の世の事ありては、此の世の事ありては
本村常陸守、此の世の事ありては、此の世の事ありては

合其勢三方將討赤國可也
所令發向難敵國故城本有勢
一と云々相之と云々敵之義
慮之果不也而之於勝敵
之明云々れハと云々敵之

一と云々部表在何之勢
一と云々表在何之勢
一と云々表在何之勢
一と云々表在何之勢

美々々々

右条々おつた方々

法米米

朝鮮國名在傳之密中

之備家宰お各三なり

怨花ね撒伸 上意了

拆其為人集傳

川井しりぬはる本多味之方所記の如き
葉の渾濁の中宛之致内指國治牙月井し
東策表り。至ては海津を以て致す邊
面濁りや瘡之を徒るうり所之は先記
札申進の如く詳云

後述邊の如

口留りの如

増田ちまの如

六月朔日

右田治部公卿友
大谷水部公卿友
右田中

此記脚ま不進者よまう一右十日迄之如き三
日に兼是也一うの考及指之を中宛之致
一考り此方くくとしあり。左田之面之呼聲
め及後縁の如く月井しにお極りり。海井之如
才ハ初指を實お致す以て三七年の干治大吏
言の如くハ輝元之先勢二万餘騎聖友之計也

しるしを収し。其味のよく、汁豊く煮
し。味より、火よりこ下し。味香しく、且、小
し。わが池より、まきし。と。也。

○ ^{モクッ}本島判官味、喜ぶ事

^{フサンホ}釜山浦より、りり付く。ある、一團と云。一、守備ハ、本島
判官より、一、白の味と、り。製法、主け、以ハ、か、あ、し
こ、小西、指、指、ち、ハ、を、河、ん、さ、表、に、せ、り。あ、と、け、
本、島、り、團、り、一、揆、^{ホツキ}味、む、し。釜山浦と、お、り、り、
通、^{ツドロ}海、を、^{サマタ}お、け、り、細川、越、中、中、り、三、子、余、長、各、川、ち、
三、子、余、本、村、常、陸、兵、二、千、小、姓、本、總、番、助、村

と、於、大、物、糖、屋、内、膳、正、太、田、花、障、子、甚、山、修、程、亮、忌、不
下、野、中、考、合、組、五、千、部、合、其、勢、一、萬、三、千、余、本、島、判
官、り、ん、表、の、味、と、^{セキタラク}味、を、り、り、に、付、り、久、ハ、り、り、
し、是、も、と、定、め、り、日、の、下、に、其、太、田、中、に、大、う、り、
り、ね、一、番、長、島、越、中、中、が、り、り、と、先、と、治、り、り、
ね、表、の、味、よ、つ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
尺、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
^{ハツカ}表、向、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
上、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
掛、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
合、^{セキマ}色、味、矢、且、射、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

本島地志

一

原を首がて擡てけり。そらりしやうんの跡一掛
 けり。城をのりん志をさして西へなり。らり
 んりりしやうの行程四日路余もろんといふ
 程より八月八日美作になり。らん志の城。あ
 る山は何と打あて海濱行つたに各先長切志
 と原集め候し一軍とくんとて受け申。是時中
 守先長松井作左衛門有吉守長太忠村事田助大馬
 尉。長谷川存右衛門内侍保志忠村共中より忠村
 本新右衛門助義外。本村常陸内本村惣兵衛尉大
 崎玄蕃元奥村平。好村兵部大権内下中長元

門尉。長谷川下野内河本元之丞なるや集りたり。各は
 志先子句へ城に心を圍ふ勇士多集り。あま
 進志先を攻めしむ。一軍とくんとて受け申。是時中
 守先長松井作左衛門有吉守長太忠村事田助大馬
 尉。長谷川存右衛門内侍保志忠村共中より忠村
 本新右衛門助義外。本村常陸内本村惣兵衛尉大
 崎玄蕃元奥村平。好村兵部大権内下中長元
 門尉。長谷川下野内河本元之丞なるや集りたり。各は
 志先子句へ城に心を圍ふ勇士多集り。あま
 進志先を攻めしむ。一軍とくんとて受け申。是時中
 守先長松井作左衛門有吉守長太忠村事田助大馬
 尉。長谷川存右衛門内侍保志忠村共中より忠村
 本新右衛門助義外。本村常陸内本村惣兵衛尉大
 崎玄蕃元奥村平。好村兵部大権内下中長元

新よて八息ひもよ〜ぬふにに。吳國人をれ八了先
角の所はよもとふくと戸もれハ。各らや戸も子も
能覚し。何れなり。聖日と先よハ。あ合組にてまけ
仔くらん志方の故より十町計もよ當て一村何れ敵
二千計あむらう鉄砲をとり。助く討さに分りつさ
あまをと追押人と下知〜くれハ。村村々少性海田務
三言 後号は田 けか面とや〜と村之中へ真先に入
ま〜ん。海田討されと〜し。大波玄番元あけよの忠是
忠米尉は久次良下控をれ忠討回さる出つ討〜つ
ついて入ぬあ〜んや〜ら〜ら〜ら。獲る言一番首と捕

てけ〜上〜り。跡係ら人も敵を心け返らんと立
出〜る〜へ掛向ひ。より身首揃て〜り。その外追討も首
百計討捕凱歌を唱ふ。あ〜て〜定〜し〜と〜竹に
〜と〜付〜西橋を塙際オシノに上。陣中〜と〜下〜鉄砲に
〜時〜め。六月十百〜子〜結核をひ〜く
と海へ投入〜く。時の敵を斬滅〜飛入〜。結核
を打ち殺〜。〜と〜合よ〜と〜れハ。結核多
〜ハ。打てま〜り。〜落。〜切〜。〜成ぬ。〜忌
〜中。〜今。〜才。〜玄。〜番。〜元。〜只。〜一。〜人。〜結。〜核。〜の。〜名。〜に。〜多。〜く。〜あ
の志を付筆を陣中に書入ま〜。一人也。此上〜

ぢんあ七侍人（七人）を遣ふも出まらん。
 右之趣秀吉に被仰り百石の介服立一羽ひ了。
 之に（カ）蛇を拵ふより早く敵味を正治せしむ。
 人志のよく里固に飛味を遂ゆれハ敵を全く
 付せと思ひあ人を後白之懸へりて又そて敵表
 之傍勢守心くり取。本軍の味を百石取。
 と被仰り一。却りてそりてそりて表へり取。
 志り一人馬の息を休めり。備前中納言
 へ六月廿一日に東河七宮集り軍機議ありて取
 口と定火の序。本軍おなとそりて又味をとり。今

度ハ於日心剛兵を撰取の事あり。也一之太り。
 して久きと思惟一唯飛味を空く。一。年月と
 是のころ人のま度なる。也。取口八園より入
 定火のころ。龍の角ハ毛利たる。取口は取口あり
 之方ハ小西探偵者刀印ハ是田流前也。己午ハ聖教
 主計取法あり。何も竹こそ拵指懸甲そせ。
 のは是あまの物一侍者を向し。因て主計取所
 場ハ城際へ五石分と備り。龍角に備り
 中納言秀吉卿もあつた。六月廿四日當夜
 是侍一。主計取陣取ハ。

にあらはらるにたり。秀忠へ渡りて、
一、法勢もたつるにそ侍存。さうへは仕方の
西軍中やして、如く申すと云。一、うた。法正つる
合のハ不入の。吾来也。其く仕方の程は。若仕方の
口ととつ。たあし付し。攻牙くらり。くつて。至
場と三系二徳取。吾来勇力。一、つ。大か。さあ
あやと。城へ付し。埋めを以。城を埋め。地
一、申。一、申。城申。くらり。招め。と。投。城。くらり。毎
甲。よ。を。一。あ。れ。と。堪。くらり。く。川。くらり。聖。白。又。聖。甲
の。繞。ぬ。や。くらり。招。へ。くらり。カ。セ。リ。場。へ。着。て。刀。印。の。方

の。石。垣。の。角。石。と。川。流。一。く。れ。に。搦。ぬ。城。中。よ
了。史。を。投。鉄。と。り。くらり。を。くらり。打。拵。くらり。さ。ら。り。
そ。日。七。元。くらり。一。く。管。くらり。くらり。壁。日。又。飛。甲。と。は。流。境
回。に。の。角。石。と。搦。三。等。くらり。くらり。搦。崩。くらり。くらり。ぞ。くらり。王
斗。取。の。勢。ハ。込。入。くらり。くらり。三。高。よ。店。林。集。人。依。くらり。旗。二
書。よ。森。か。保。大。夫。くらり。くらり。致。録。白。角。立。来。三。高。よ。日。白
流。兵。の。母。衣。の。志。後。衣。又。吾。来。三。人。集。くらり。くらり。の。くらり。景
入。ぬ。軍。中。の。人。は。是。を。尺。指。と。くらり。くらり。くらり。くらり。人。お。り。れ
こ。裁。一。あ。ら。り。くらり。くらり。お。り。の。勢。ハ。石。垣。を。穿。て。城。上
ハ。聖。なる。勢。と。入。お。つ。先。を。争。ひ。一。搦。及。志。り。

八尋の... 後の... 先陣... 極り... 亦危
 八能... 多... 川... 切... 戦ひ... 新...
 とへ... 攻... 六... 落... 亦... 亦...
 之... 指... 並... 付... ぬ... 亦... 亦... 亦...
 へ... 戦... 一... 痛... 亦... 亦...
 ら... 進... 付... 進... 上... 付... 足... 首... 一... 葉... 五... 千... 三...
 百... 或... 志... の... 上... 付... 落... 死... 一... 或... 大... 河... 入... 付... 溺... 死...
 一... 部... 合... 二... 葉... 五... 子... 案... 人... 一... 部... 一... 部... 一...
 一... 部...

○文禄二年卯月九日北条氏直が印丸を能く討ち

翁

- 子葉振
- さんざん
- りきり
- ころり
- とま八節
- 大葉六
- 大葉急葉
- 大葉葉葉
- 葉子葉次

- 一番うね
- たま
- りき
- とま八節
- とま葉八節

大葉急葉

とま葉八節

法道

長命甚以帝

大鼓

大鼓亦亦

小鼓

孝の命以帝

笛

長命甚以帝

大鼓

と孝の命以帝

あひ

大鼓はははは

ねえ

長命甚六

二番 田村

大鼓ははは

大丈

と甚八帝

りき

と甚源ははは

大丁

樋口ははは

小鼓

親世ははは

笛

長命新はは

あひ

大鼓ははは

狂言くわら大名

傳ははは

お撲と集り

甚六

三番

春風

大丈

と甚八帝

と甚

と甚源はは

片礼

大鼓

小鼓

浦

あし

ね云釣三つ

あし

四番 耶那

大史

大尺

竹俣和泉

樋口石久

幸内言次郎

八幡助石久

長命甚六

祝海三郎

甚六

曾根新九郎

喜多川大進

大鼓

小つ

笛

狂言宗簿

五番 道成寺

大史

つ

大鼓

小鼓

笛

かろや甚三郎

山内石久

長命吉三郎

大鼓海三郎

七三甚八郎

武隈和泉

大鼓平次郎

幸内言次郎

長命吉三郎

粗云 淨大層

見物の法儀大層等々折り下下下等
めりりめ小大層^森座乃志乃法服^下下平
八節に八層^森織菊の法儀付^下法小袖二
層なり

六層 八幡

大層お取之内小袖を^下一層^下法儀^下
仕り也

七層 三掃

大層 七層 八節

八層 金札

りき	喜 ^下 喜 ^下 大層
大層 ^下	大層 ^下 喜 ^下
小つ ^下	喜 ^下 又 ^下
笛	長命 ^下 新 ^下 大層
冬靴	七喜 ^下 又 ^下 八節
金札	七喜 ^下 喜 ^下 八節
大層	七喜 ^下 喜 ^下 八節
りき	七喜 ^下 喜 ^下 八節
大つ ^下	七喜 ^下 喜 ^下 八節
小つ ^下	七喜 ^下 喜 ^下 八節

節

七命吉大

太節

深谷金花

○漢南勢為救朝鮮急難集陣之

癸巳二月十日漢南之勢五十萬集陣一
起しり西大河を便し一要害を據る中
子陣の多しと合せしり。多勢に七驕を都る反
てて入しり。統固めち、子方と入る。集
しり。せ打破り。宣し。しとお談し。同十

二日排曠に四方より押つた。二之丸をうへ。心火を
お。お。お。推つ。お。お。お。つ。家。お。お。お。組。打。し。か。し。に
て。い。追。詰。首。を。取。し。り。を。抄。う。も。あり。多。勢。に。し。心
し。り。珍。し。り。防。ぎ。戦。ひ。し。り。不。落。去。る。危。し。なり。か。し。り。七
西山にわさる。さ。し。り。一。つ。は。先。虎。口。と。有。せん。と。し。り。正
を。却。る。子。陣。を。固。め。り。し。り。東。の。ぬ。き。い。み。を。し。り
紫。山。を。し。り。一。里。し。り。一。里。を。固。め。塞。の。陣。の。備。へ。宣
し。り。合。し。り。と。大明。勢。者。は。し。り。小。勢。なり。と。し。り。大
軍。之。け。強。し。り。か。し。り。始。終。難。拍。や。し。り。十三。日。を。兼
の。し。り。一。つ。は。宣。し。り。五十。万。勢。の。勢。と。言。は。れ。し。り。し。り。は

正一やんともさうらうの曉天子伊賀乃思ひ
 乃上子とつり一尺せし中多勢の事
 いらまもなま一人となし掃除まてつり
 正一とて三月一日懐列法皇中御之位秀
 以名獲屋為法凡孫法兼陣を侍奉え人々
 与西院修寺出みらる射百貫法兼を奉り後
 聖代京大夫と為兼海々りなれ此新宅一
 尸され殊なれ所馳走なり此信秀卿は
 三位中将信忠の皇子信長とて嫡孫なれ
 天下をともあら名入ありと

評曰秀秀吉公此卿一天下之宗^カ督と復つと
 徳子孫に傳りり秀形とて第之に其名
 七かりり人物と人欲とてくを
 びりて秀次とて讓つとありさしとあり
 といはれ授意のさしとてさしとて
 以後世も皆對子孫と絶名と法と傳
 同三月十日丹波中御之位秀勝とて勢を中
 到りし名獲屋法凡とて一と兼陣山口言兼
 先供あり即本丸之内に置やとて此
 所振舞一かつとてとてとて此黄門ハ秀次

さうは今身なれい〜保つとけよ真に也。

○豊後守護大友は折檻之り

受。侍保志福原右左衛門忠経若内花元

一先子之嫌にさう者及難儀之折檻可也然
めつさきの城を指す人数と入る事平原何と
存知之事也然と少あし志難百死一生なりと
云々不存脚成。割平隲之松子と不守合逐前
所莫其代事守之仕立不存是也いさ。

一秀吉の年々若うり此道に携と云々。然るも吾
越後を以てさうある〜。是ハ殊に大明勢との合
戦なれり。此のあつ〜。一さハのあつ〜。若
之平。武者にも不能。志義之心とさう〜。一武士
乃上絶言語。さう也。向後乃〜。一平とさう果
ら義なりと云々。折檻のり久〜。一保つ〜
中とさう新徳と柳さうさう中とさう
保つ〜。固して死を宿め平。能武士と上とさう
味〜。悔。此可申さう。

一天正中さう〜。一折檻と批合戦務及返こに付云。

對某德加勢至下の勢取之固とあり。其まある
と無と云たり。家取の習いありん七古く格
為なれは字の連としか勢は西徒亦可追放と為
るはか船之平。此方一れたとて不れ格乃合戦
刻の越格は合且淺智の海津の謀計よおと
一入られ及敷小且怯兵の取小海一とて
好して乃一戦。大友先祖之船と格代に取たり
そ飛よあ揚針。成に取年取に置けり成へ
とある入同國お見取入る。古と格する
臆病家之瓊瑾世とあまう一とあり。

一連の味と格一取てり。大敵勢未之當座之患
難と道とせん。あつた大友四戸未謀る可し時
格。推就つ其忌難とのえとん。あつたや
のりともとり。成に取と格布や
り。尤能け者り。難取國之業。業遠三画。業其
實社に七船。先祖之家業と願三一廉之備とあり
ま。い理と當也。云はる。飛玉煙とあり。
一法候大友外取。り。別。大友家。古く存。初と有之
由。これ。其。古く。存。初と有之。由。
備加階。古く。存。初と有之。由。

一其身之より、安藝軍に對して、

一其息より、同家にて、仰付り、

一其つゝ、その方より、

一免の武家と、其の、

一その言に、

一尤い、

一其大、

一と、

一其、

右条之其國在何處とて、彼より、海傍、
其集、
お、

又福二、

秀吉、

之、

一其、
下、
之、

志多れが辭破に思ひ^{ヨリキ}あか^{カケ}とく^{カケ}の軍之先^{カケ}攻^{カケ}を
遊^カま^カく^カよ^カき^カ道^カなる^カ人^カさ^カう^カの^カり^カ。

一船^カ志^カを^カ好^カ三^カ此^カ中^カ在^カ得^カう^カの^カ由^カ。是^カハ^カ船^カ解^カ表^カ。味^カ方^カ美^カ利^カ
り^カめ^カく^カハ^カ先^カ近^カあ^カ一^カ己^カ之^カ舟^カ敵^カを^カ自^カ由^カせ^カん^カの^カ内^カに^カ
休^カう^カ。何^カ局^カ勇^カ志^カ之^カ睡^カふ^カら^カし^カて^カ。徳^カ之^カ病^カ志^カ之^カ所^カに^カ
休^カり^カ。

一先^カ年^カ九^カ列^カと^カお^カる^カに^カ列^カ。何^カ之^カ志^カ也^カと^カ無^カく^カと^カ云^カ兵^カ
度^カ以^カ進^カて^カ歎^カき^カ尸^カに^カ付^カる^カ。我^カ知^カふ^カに^カ海^カ堵^カ平^カ。そ^カ上^カ
上^カ方^カ善^カ徳^カ也^カ。再^カ開^カ東^カ陣^カ。し^カ先^カ以^カ先^カい^カう^カ也^カ。ハ^カ強^カ之^カ
に^カ恩^カと^カし^カに^カ志^カ却^カ。割^カ腹^カ也^カと^カお^カ合^カ之^カ仕^カ立^カ。み^カ好^カそ^カ

此^カの^カり^カ

一其^カ身^カ之^カ美^カハ^カ十^カ人^カ身^カ之^カ強^カにて^カ。ハ^カ西^カ振^カ振^カ也^カ。亦^カに^カは^カ
し^カ。堪^カ忍^カふ^カに^カ美^カ追^カる^カに^カは^カ休^カ付^カら^カず^カ。

一涉^カ多^カ三^カ河^カを^カう^カ。錫^カ結^カ如^カ契^カ也^カ。亦^カ力^カ強^カ不^カ付^カ上^カ。同^カ前^カに^カ
の^カし^カハ^カ勢^カ之^カ也^カ。極^カ臆^カ病^カ。こ^カし^カう^カハ^カ口^カ。亦^カ志^カに^カ隠^カ居^カ
り^カ。怯^カ志^カと^カ云^カず^カ。亦^カ志^カと^カ云^カ。勇^カ以^カて^カ死^カ甚^カ深^カい^カり^カ。

一名^カ獲^カ屋^カハ^カ涉^カ多^カ郎^カ知^カら^カず^カ。一^カ度^カ探^カ敏^カに^カ訪^カ立^カら^カず^カ
居^カ陣^カの^カ内^カに^カは^カ氣^カ色^カと^カし^カ仕^カ。先^カ多^カく^カの^カ也^カ。我^カ
う^カ也^カ。志^カ之^カ船^カ志^カと^カ使^カる^カ。亦^カや^カの^カ時^カ也^カ。亦^カ行^カら^カず^カ
そ^カゆ^カく^カ無^カ志^カら^カず^カ。

一此は却に去る法勢川に砌中途へ女が補其
不^ツ事^ニ引^キんと被^キる由^ニ深^ク以^テ狂^ニ忍^ニる後^ニ徳^人
の死^ニこゝろに七^ノ掛^キを^シて^シらん^ニれ^とも
死^ニ死^ニと^ハは^シ死^ニ許^ハは^シ句^ノ後^ニ亦^チ分^リを^シ言^上。家^ノ姓^余
は^ラ下^ノ置^ニて^シり。

一先^年の^別上^ノ家^ノに^テ到^リ 波^多子^ノあ^らむ^カ易^ク之^を
之^を重^キら^ず一^ノ籍^にと^シ錫^所 東^子兼^而後^ニ云^フり^付る
女^を去^ルに^テ安^徳平^ノ。子^上を^國之^後も^後子^思石
京^都之^善清^有 用^本河^をと^シて^來流^矢に^キは^後
こ^ろも^と不^ふは^かる^る後^に傷^ムる^人も^なき^也と^云ふ。

一此は甲斐守の所を頼軍が来り来りて之を堪忍の
事にして之を休出せり。

右五人とも名あらずやうもな也。

又福之屋五月二日

新解在河前集

河前大友侍は家統の傳ふ者なり波多三河守の
程家に遊ひ人吾子明し已まを利せんす
と^ニ遊^ヒの^由も^しう^もし^う思^ヒこ^のあ^かは^ハ士
の^格を^樹と^云九^ニ。己^ノ命^を無^レに^因て^ク秀

此家にお寛りなれ。各々留め指し^{コレス} 明日の用を
何ことの一は内よ。我も又我々の侍も其船に
到りしうは。何もいさへせあつて。船もなすやと。出
たり。其船を誘ふ。むらうらうらうの。其備^{ツキ}度^{モト}
番船こそ三百余艘を。瀬戸口より並居つて。二手に
分。山乃林^{モト}に流^{ソウ}て。やぶ。沖なる流に付て。やぶ
尺。し。尸。の。船。指。し。の。心。を。そ。て。あ。つ。つ。は。や。ん
番船より。大町。も。あ。つ。に。流。り。た。る。物。二。艘。を
疾。舟。を。と。り。て。あ。の。疾。舟。に。船。指。を。毎。衣。の。え。と。足
え。り。し。は。乃。み。と。一。に。あ。つ。り。や。と。指。を。連。発

船てし。は。ん。り。か。る。二。艘。の。み。一。艘。に。八。割。あ
た。ま。の。船。を。た。ま。の。射。束。勤。大。ま。の。一。艘。に。は。ま。あ。ら。な。ま。の
射。束。回。三。言。り。帝。要。理。志。大。ま。の。そ。か。一。艘。に。河。村。控
せ。帝。お。方。在。兵。束。射。束。を。向。ひ。ま。れ。た。ま。の。二。言。り。か
の。鬼。な。ま。の。下。ち。し。て。日。聊。尔。よ。あ。つ。て。さ。り。一。仕。換
ま。か。是。大。船。を。う。せ。大。銃。砲。石。火。矢。を。向。射。せ。く
め。な。ま。の。い。う。り。け。な。る。船。を。こ。あ。て。や。く。た。極
に。物。に。流。り。敵。船。中。こ。こ。る。人。尸。海。に。こ。え。独。り。小
船。を。い。う。ん。く。と。三。時。を。内。よ。大。船。を。と。り。あ
ら。は。患。く。あ。宗。捕。党。い。は。や。と。力。を。打。て。殺。り。た。

やせうらりたれはる船もらううニシ寝てせしる
他は生らにやいついて乗入んとせし一乗の射落
され海中にそりし沈むと云々名い所より浮る
了。河村控七云云方長共射射しついで乗揚げ
利。佃シタ共共射落らるる射東船大生つ射中時
後大出づ。そ外射サキの共十廿六人とし。三艘乗
捕ぬ。ちる船乗入一船も融一人も死し。何方へまた
向やんとし。あまよ。ちを板の上みれ。船底より打
入てうをこぶくとりちりりけり。何れも
らやうもまうたあしひを向ふ。なる船何とを

くれらそや正殺入んと想カう。く。あ方面をやり
太刀をぬきつ。噴と入。中しく矢をち射
はら。ちと合せぬ。ちなる氏。接切り代キツて。首を搦に
ちり。或肘ヒナを打。ちと海へ飛入もあり。さうして
つても不便なりと思ふ。ち。助て搦をとおさるるもあ
或水をぬく。さるるもさう。十名一に助をにたり。
船後母衣の走と一艘乗掬ぬ。ち方長一船も三平
一人有。ち。ち。ち。一人射死してたり。ちやう
も法人を用ひ。ち。ち。ち。稀なり

浮日城之剛兵キワソウ窮氣キウキあてカマ噬猫シヤウ之物モノ

あり。新解人川へ存らうとてらるる信義性

三平
怯ら

首務にひくふ大ねらるる物^{カウキ}とて。腕^{カチ}を

一掃とくやめ方を操^{モシ}て。急げやくとみ。一掃

新影。一掃の言あのみふたの誓なる物と

とて。一掃とて。一掃とて。一掃とて。一掃とて。

心地ありけり。一掃とて。一掃とて。一掃とて。

とて。首務の面々に向て云を。一掃とて。一掃とて。

きく。一掃とて。一掃とて。一掃とて。一掃とて。

た。一掃とて。一掃とて。一掃とて。一掃とて。

○かたはる物感状

危殆よとわく者。三万余艘の中へ。かたはる船品。被

宗入る。寔に古し。一掃とて。一掃とて。一掃とて。

尤甚。一掃とて。一掃とて。一掃とて。一掃とて。

將軍を。獨座を。置され。たる物。一掃とて。一掃とて。

解曰

其方夏天正十一年夏於江上築田合戦之刻突
番船を勦揚焉為法慶第一庵之加増年
今般亦於此解危所番船數百艘之中餘味
才船船系入系捕敵船為多之舟柄を勇切
惟立之于上乎孰以于下乎殊上之無於此天
對山与海の川入る方各鐘と連判就難
棄於此友之計以未不為かおる方神妙之
至徳感之料也依茲手前代官にありて才
三第七子石上の増年。本知合十第石の内
考可石志のめ無役法候之旧徳病志の

之志被傳報示形以可證加國者之系自
家可抽其忠之状也件

文祿三年

九月日

秀吉右馬守

其方夏天正十一年夏於江上築田合戦之刻突

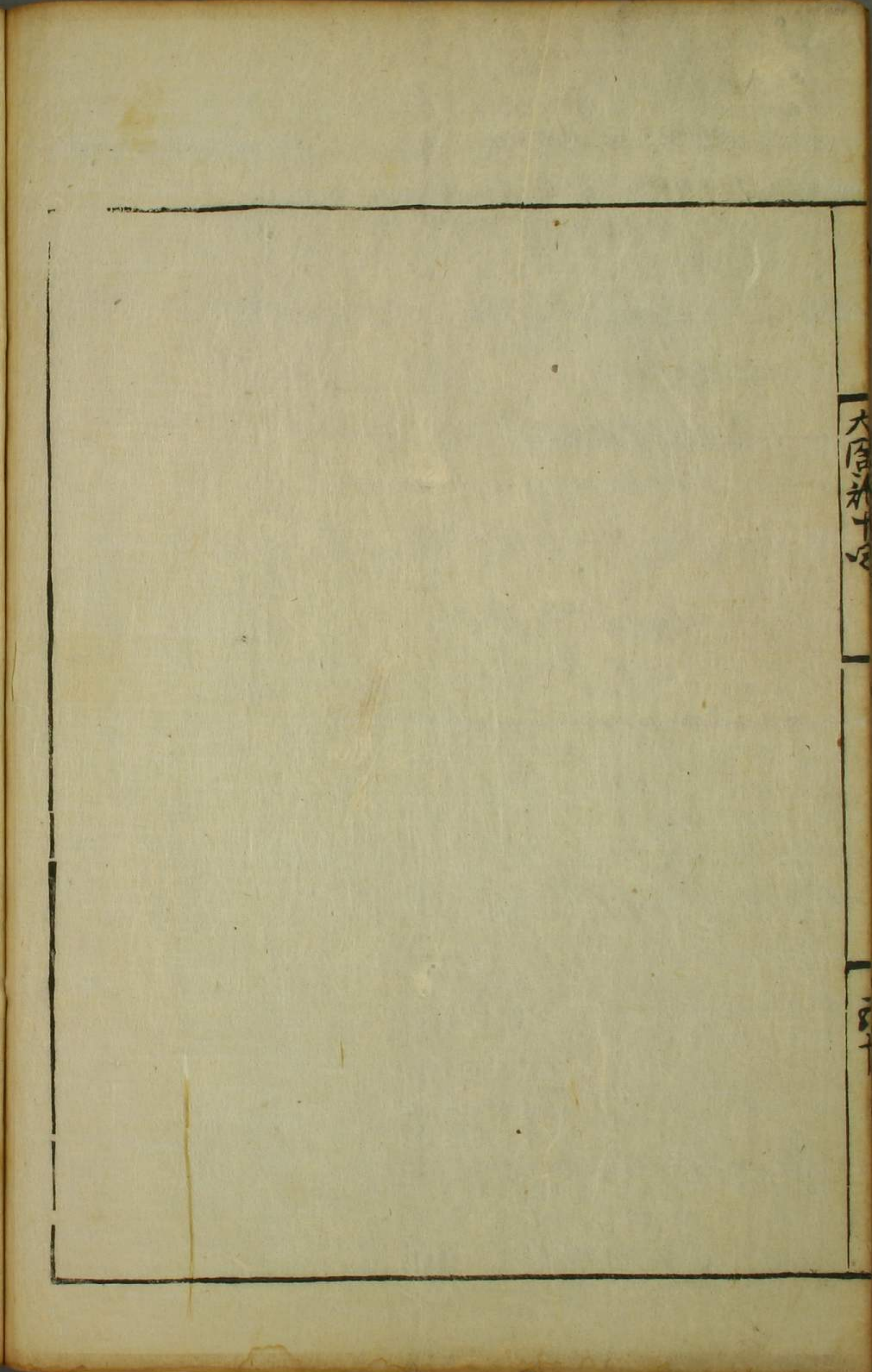
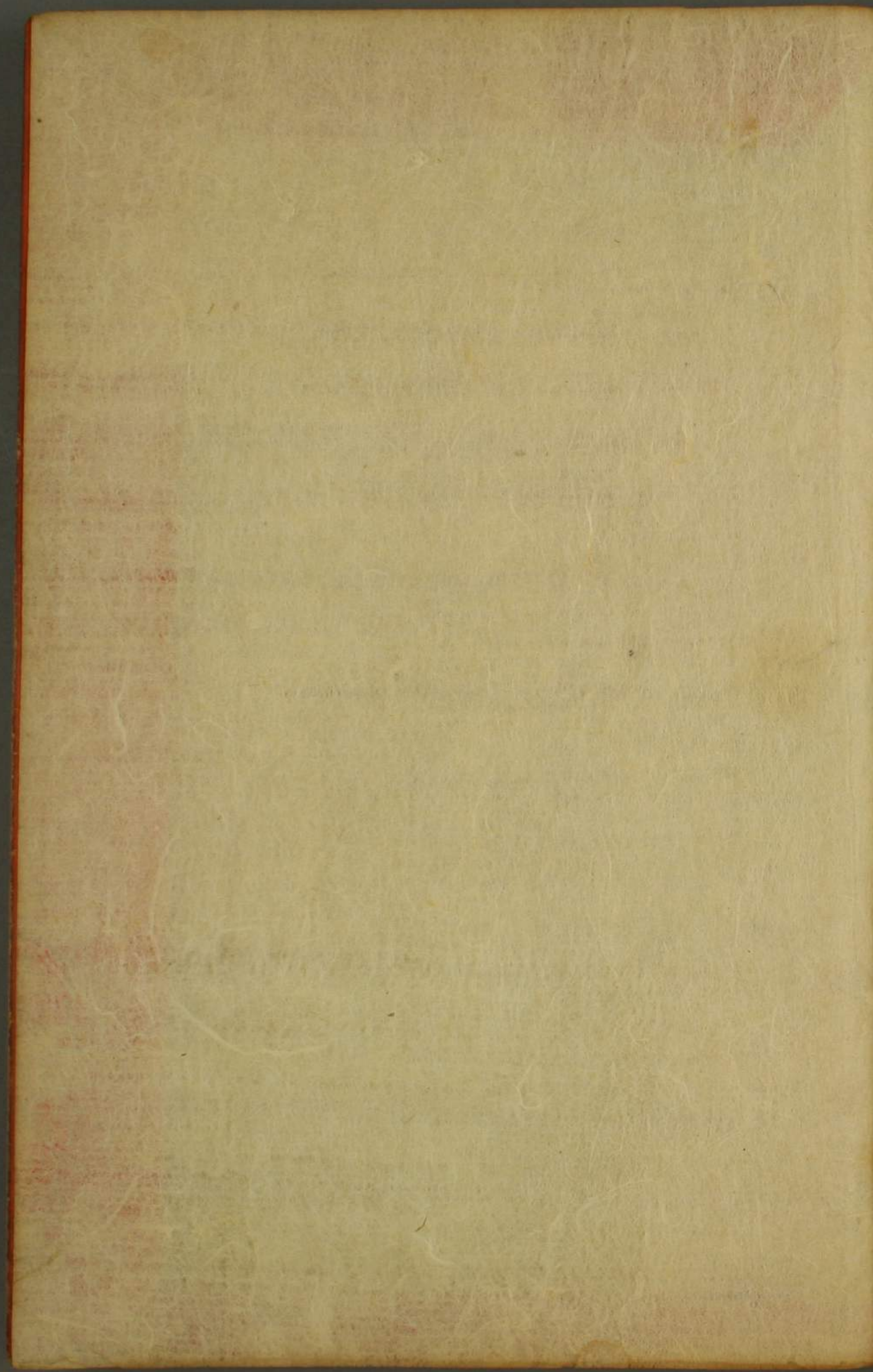
番船を勦揚焉為法慶第一庵之加増年
今般亦於此解危所番船數百艘之中餘味
才船船系入系捕敵船為多之舟柄を勇切
惟立之于上乎孰以于下乎殊上之無於此天
對山与海の川入る方各鐘と連判就難
棄於此友之計以未不為かおる方神妙之
至徳感之料也依茲手前代官にありて才
三第七子石上の増年。本知合十第石の内
考可石志のめ無役法候之旧徳病志の

た京大吏自ら獲て合せ突出ツキし一なり。鐘鼓新シラを
をへくく及セヨびくもさき向とあせせたるも謀
伝ち云のゆりテキもお似たり。三丸とぞニテる一毛
利右ら路片は泉民部大吏元芝は於之利家受
の急なる付必魁クニ之役ヤクたり。し、後七亦普徳本
未究ニキなる外カハ捕とあり方小子河流赤中陸京と
觸コまりぬ。民部大物固くありて、象波安忍流
付くと返答せりかくも七果ニぬに漢も勢チもとふ
惣シまりぬ。今泉もさきもたにほく叫喚シキして
火をとりくお戦ふも毎別になつる。鐘鼓或

我ひけり建或討死し一獲ツりもくありかんし一更に
敵いひく揚チり来て攻入し一く。民部大物も
ももにまひ志シれり古の人長刀と水車に廻ハし
難持ナシ浅沼也スあやと一所に討死と遂トきりたりと
志シりあまうして大余人枕マをとりてさきぬ白松
善大求の射伴契崎も三求射吉安大言兵求ハも射
し一在ニ他に討死せりし一もをわのちと思ひ
路チに元芝を斬おとす也。も捕りて腹十文字
にかき切て失シり。士もれとあやし、まもり
つし一大切なるにけり討死せり一士大余人追腹

くとりとつらむらふちひ人を撰エラこのせくとらう
に。庄林隼人セウ佐五郎はよるて二子系人撰エラ出
行よか沖をこられ。番取百艘クモ蜘蛛乃子あそび
たふくならず。水手挽取足おらうして震フルひらる
あさつ何とて何の中とつとあそびんや
あひあきあふまんと。命あまの人かとつあやさ
あつてつらつて浮やらぬ水カ手カを多うりつら
汁頭チ中チよも七云架何とつらつらかなら
小姓よして何の飯田角共来よ向てあ乃大もら
男をこれへ具して来連と云つらつら。あまの

川流ま汁頭あより飲くらだとのるを対も時に
こよれ。家と初め命あまのさか。あ思ナキ也。あ一人のこ
矢よの連とつらつらにさんと云ぬけいむら汁なれ
刃とぬいてらと撰エキくらつら。彼大船付ら
あ子心かおらつら。あヒラはは物之。船出
さいこやめあつら。いと俺つらつら。あもつらつら
あつらつら。あ男かあつら。船に飛入と云つらつら
あせあ人といつらつら。あつらつら。あつらつら
あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら
あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら
あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら
あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら
あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら



大原

上

